

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 人間の集団を表す字音形態素に関する研究：「族」「勢」「民」「衆」を中心に  |
| Sub Title        |   |
| Author           | Chan, Ikuo  |
| Publisher        | 慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター  |
| Publication year | 2024  |
| Jtitle           | 日本語と日本語教育 No.52 (2024. 3) ,p.157- 157   |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            | 大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨  |
| Genre            | Departmental Bulletin Paper   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20240300-0157">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20240300-0157</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〔大学院文学研究科修士論文〕

## 人間の集団を表す字音形態素に関する研究

### — 「族」「勢」「民」「衆」を中心に—

CHAN IKUAN

本論文は、人間の集団を表す字音形態素のうち、SNS用語の用法を含め、比較的造語力のある、「族」「勢」「民」「衆」を取り上げ、考察したものである。

考察にあたって使用した資料は、主に『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）より検出されたものであり、また、本論文の内容を補完する意味で、ツイッターからSNS用語の使用例も収集して、これら字音形態素の前接語基の特徴を考察した。

まず、その前接語基の特徴について、「族」の場合は、人間の意味を表す意味用法は「同じ血統・祖先のもの」と「同類の仲間」の二つがあり、前者は、実在する民族の名前や地名に接続することが多く、そのため、前接語基の種類は比較的単純である。一方、「同類の仲間」では、「人物の特徴」の捉え方次第で、様々な語と接続できるため、前接語基の種類が多い。ただし、その使用例の多くは、新たな社会現象や、流行によりできた特定の集団を表していることが確認される。ツイッターの調査では、主に「同類の仲間」の例を取り上げたが、その使用例では、グループの人間を誰かが何らかの特徴でまとめ上げるBCCWJの使用例と違って、その文脈から見て、文章の書き手が自ら「〇〇族」と自称していることがわかる。そのため、その前接語基は書き手の意見・アイデンティティが強調されている部分であり、従来の意味用法と少し異なる使い方であると言える。

次に、「勢」については、SNS用語の用法を含め、その使用場面は「戦・争い」との関係性が強く、そのグループは常に他人と競い合う関係にある。また、グループの人間は勝負事に勝つために全員が力を尽くすため、その集団は高い結束力を持っている。

「民」は、統治される側の人間を中心に説明しており、その使用例から、グループの人間を「暮らし・生活」というカテゴリで分類していることがわかる。一方、ツイッターの使用例では、その使用範囲は本来の意味用法からさらに広がり、前接語基の種類も体言類や相言類に限らず、臨時一語やフレーズに接続する用法が見られた。また、「民」は便宜上、一時的に人物を分類する際に多く使われる傾向がある。なぜなら、「民」は、グループの分類基準、あるいは人物の状態が変われば、所属グループが変わることがあるからである。その点においては、生まれながら所属グループが決まっており、「同じく血統・祖先のもの」を表す「族」の場合とは異なると思われる。そのため、「民」は比較的自由に言葉を作ることができ、その造語力も他の字音形態素に比べて高いと言える。

最後に、「衆」は全体的に古い言葉に接続することが多く、前接語基の種類も各分野に渡っているため、明らかな傾向が見られなかった。ただし、「衆」はほかの字音形態素よりも、本来の意味用法に沿った使い方が多く、また、その意味用法から考えると、本論文の題目にあるように、「人間の集団」という意味がもっとも強い用法だと言える。

以上のように、人間の集団を表す字音形態素「族」「勢」「民」「衆」の特徴を明らかにした。